

story

わたし物語

世界最高峰の生物学研究を続ける

三浦 正幸 さん

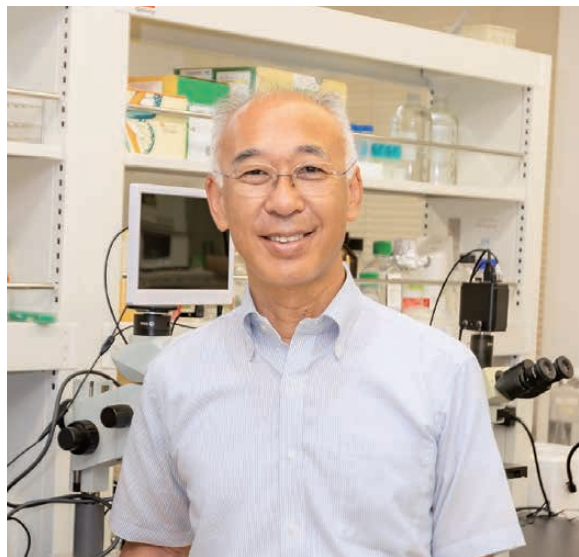
◆みうら まさゆき さん

自然科学研究機構・基礎生物学研究所 所長 理学博士

世界最高水準の学術研究を行う基礎生物学研究所の所長に4月から就任した三浦さん。「ここで働くのは2度目。岡崎は以前と変わらず豊かな歴史と自然があり、桜のきれいなまち」という印象を話してくれました。研究者を志したきっかけは、ふるさと秋田の海岸でハタハタの赤い卵に興味を持ったこと。その頃読んだ「卵はどのようにして親になるのか」、更に高校時代、岡田節人氏著書「細胞の社会」に出会い、大きな感銘を受け、この分野の勉強をしたいと決意。生物学研究への第1歩を踏み出します。

大学入学後は研究三昧の毎日。素晴らしい恩師や先輩にも恵まれ、大阪大学、ハーバード大学、理化学研究所、東京大学など各地の大学や研究機関で研鑽を続けます。

「父親が転勤族だったため小中学校を6回転校しています。そのためか研究場所が変わることは苦になりません



でした。むしろ多くの研究者と知り合える喜びが大きかったのかもしれない」とプラスに捉え、細胞研究での新しい発見につなげていきます。

「岡崎の研究所は生物とまっすぐに向き合い、高いレベルの研究を続けて世界の生物研究を牽引しています。人間の生活をより良くするためにはそのベースとなる自然のことを知らないといけい。それを知ること大きな発見を実現できる研究所でありたい。そしてこれまでもそうだったように岡崎に行けば面白い研究ができる、そんな場所であり続けたい」と所長としての意気込みを語ります。研究所には大学院生も含め、共同研究により若い人材が集まっています。「先輩の言葉ですが『やって・みなけりや・わからない(YMW)』。現代はネット上に情報があふれていますが、躊躇せず手を動かし足を使って、実際のものを見て欲しい」と若い世代へ期待を込めたメッセージも。

コロナ禍もあり6年ぶりに通常開催となる基礎生物学研究所の一般公開。「小さいお子さんにも楽しんでもらえる内容で、事前予約も不要なので多くの人に来ていただきたい」と自ら先頭に立ち準備を進めています。世界最先端の研究に触れられる機会は、滅多にありません。ぜひこの機会に研究所へ足を運んでみてください。

**基礎生物学研究所
一般公開2025**

生き物はすごい!!

10月11日± 9:30~16:30

研究施設公開、研究展示・体験、研究者トーク、スタンプラリー。詳しくは、ホームページで。

当日会場へ

ホームページ

Mayor's Column 岡崎再生

「岡崎に生まれて
本当に良かった!」
そう思えるまちづくりを



岡崎市長 内田 康宏

阿知和地区工業団地と 本市初のスマートインターチェンジ

アンケートについて、27ページをご覧ください。

本市では市北部の阿知和地区に新たな工業団地を整備するため、令和9年3月末の完了を目指し、造成工事を進めています。企業誘致は、新たな雇用の創出や税収の増加などの効果が期待され、地域経済のさらなる発展を目指せる、まさに「稼げる岡崎」を実現するための事業です。

近況として、7月12日から13日の夜間にかけ東名高速道路を通行止めにし、高速道路を跨ぐ橋の架設工事を実施しました。私も現地へ赴き工事の様子を見守る中、関係者のみなさまのご協力により安全に施工することができ感謝いたします。また8月23日・24日に開催した工事現場の見学会には親子連れなど164人の参加があり、広大な敷地や多種多様な大型建設重機の見学、運転席への搭乗体験をしていただきました。さらに、この工業団地と一体で整備を進めている本市初のスマートインターチェンジの名称を検討するにあたり、アンケートにより広く意見を募りたいと考えています。本市の北の玄関口として、市民や地域にとって親しみやすく、高速道路利用者に分かりやすい名称になるように、候補をお示しして実施しますので、ぜひ御意見をお寄せいただきますようお願いいたします。